

鹿児島県霧島市国分山下町

# 京セラ鹿児島 ファインセラミック館

(京セラ国分工場敷地内)

10/27

大山 晃



京セラ(株)は、創業以来ファインセラミックスの技術開発によって業界をリードし続け、素材が持つ可能性を追求するとともに、技術確立によってさまざまな分野へと用途を拡げています。現在、そのフィールドは、エレクトロニクスを始め、自動車、エネルギー、医療材料、生活品など多岐にわたっています。

創業者の稲盛和夫名誉会長の故郷である鹿児島県の国分工場(霧島市)では、ファインセラミックスの製品とその技術を広く一般の方々に公開する展示スペース「京セラ ファインセラミック館」を開設し、京セラ(株)の創業からの歴史や企業哲学、ファインセラミックスなどの製品をはじめとした最先端商品を展示・説明していました。

優良な日本製品のイメージには、部品生産における技術革新がベースとなっていますが、それを支えてきた京セラ(株)の歴史を感じました。

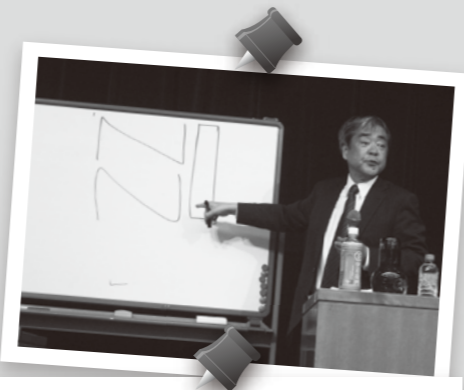
## 毎回の「議会だより」 楽しみにしていますか!

三田 敏和

11月22日、福岡県自治会館において、町村議会広報研修会が開催され、広報委員7名と事務局が参加しました。研修は、城市 創氏を招いて『議会だより作成のポイント』と題して講義を受けました。

併せて議会広報クリニックは年々応募する議会が増え、今年は10議会が過去に発行した広報紙を提出しました。議会広報紙の評価を織り交ぜ、読みたくなる広報紙にするための企画作り(全体構成)、原稿依頼、原稿整理・写真手配、見出し付け、レイアウト、校正のポイントを教授いただきました。読者の関心を引く全体構成をどうするか。①住民の関心・意識の高まりに応える②より住民に近い議会を実現する③幅広い議会活動を理解してもらうために報告より議論を重視して、より住民の立場に立って編集を心がける、という内容でした。わかり易く読みやすく、質疑・議論が議場の外の人に伝わるように心がける必要性を感じました。

帰りのバスの中で、研修の成果がどのように住民の皆さんに伝わっているかの話題でもちきりとなりました。今回の研修成果を今後の紙面づくりに生かし、毎回の発行を楽しみにしていただける広報紙を目指して研鑽を積んでいきます。



鹿児島県志布志市有明町

# 伊崎田保育園

10/27

峯 新一

鹿児島県志布志市にある、社会福祉法人純真福祉会「伊崎田保育園」はプロゴルファー横峯さくらさんの叔父が運営している保育園です。横峯理事長にヨコミネ式教育法をお伺いすると、人間の才能である心の力、学ぶ力、体の力をつけさせ、子どもたちが生まれもっている可能性を最大限に引き出す教育と切り切りました。

現場を見てわが目を疑いました。2歳児まではどこでもやっている保育園となら変わることはありません。3歳児では読み書きを始め、宮沢賢治の「雨にも負けず、風にも負けず」の詩を朗読し、4歳、5歳児になると足し算引き算は当たり前で、絶対音感による音楽演奏、逆立ち、側転、これが保育園児?と議員全員が驚きを隠せませんでした。

私たちが見学した約2時間、園児は普段通りの保育風景と聞きましたが、誰一人として席を立つ園児がいなかったところに感心し、興味を持ったのも事実です。地元47名を含めて120名近くの園児が通園しています。

上毛町行政改革大綱にも保育所の民営化をうたっています。今こそ町の将来図を描き、教育の第一歩となる保育所を他地域から、うらやましがられるような人づくりの場になればと願っています。



鹿児島県霧島市福山町

# 坂元醸造

(黒酢壺畑)

10/27

宮崎 昌宗



江戸時代後期、薩摩藩の福山地方は、気候条件や当時の交通の要衝であったため黒酢造りが発達し、24軒もの醸造所が軒を並べるほどでした。しかし、大正から昭和初期にかけて石油からできる安価な合成酢に押され衰退しました。戦後には米不足もあり、残った醸造所は坂元醸造だけとなりました。

当時の社長、坂元海蔵は自分の代で廃業することを決め、息子の昭夫は医学(薬剤師)の道へ進みました。その一方、昭和40年代に有害食品が問題となり石油由来の合成酢が敬遠され、壺酢が再び注目されはじめました。坂元昭夫は父の造った黒酢を患者に飲用を進めたところ病気に効果があったことから、九州大学に壺酢の分析を依頼しました。豊富な種類のアミノ酸やペプチドが含まれているという驚くべき結果が報告され、本格的に壺酢づくりを再開しました。

そして昭和50年、坂元昭夫がこの壺酢の名称を「くろず(黒酢)」と命名したことが、現在の黒酢ブームの発端になります。今では地域の黒酢生産が増え市内12の醸造メーカーが黒酢を醸造しています。

普段、何気なく目にしている黒酢ですが、黒酢の歴史を通じて、人々が元気になり、地域が元気になったことに感銘を受けました。